

# 秋建時報

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋建時報

平成24年4月1日(第1215号)



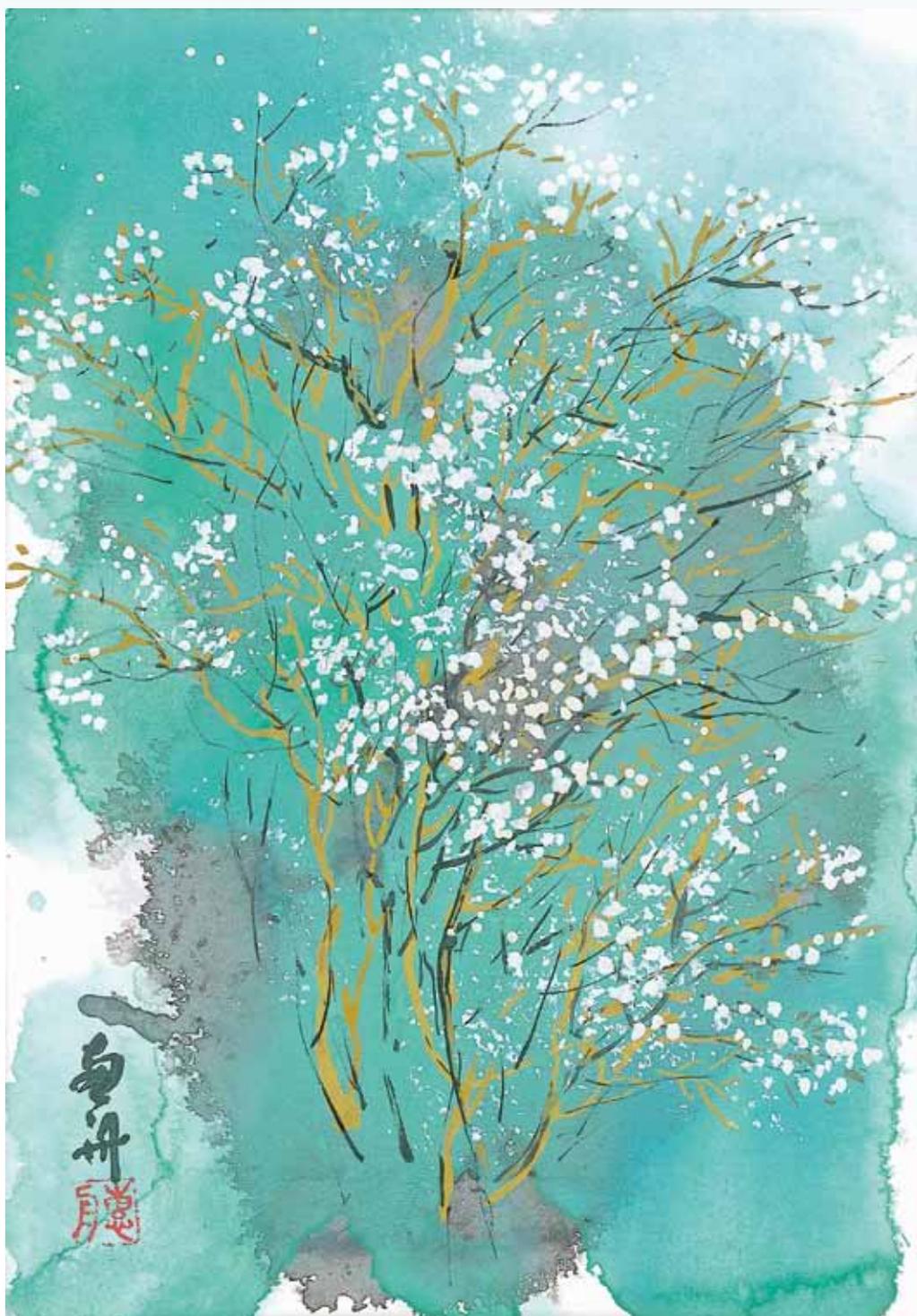
発行/ 一般社団法人

秋田県建設業協会

秋田市山王四丁目3番10号

TEL 018(823)5495

FAX 018(865)2306



春の歩みは鈍いが、草木の新芽が産声をあげている。自然の強さを想うと感動し、力が湧く。春の風情に憧れて描いてみた。

絵／文 白澤 恵舟

## 一般社団法人への移行を承認・可決

### 第6回理事会／臨時総会

(社)秋田県建設業協会は3月14日、秋田県建設業会館別館大会議室で平成23年度第6回理事会と臨時総会を開催した。

第6回理事会では、建設業福祉共済団からの交付金等に係る取扱要領変更のほか、平成24年度事業計画並びに収支予算案について協議が行われ、各協議事項は満場一致をもって承認された。

また、理事会終了後に臨時総会が開かれ、協会が特例社団法人から一般社団法人へ移行するに当たっての諸案件について議案が上程された。

議事では、今般の公益法人制度改革

に伴う一般社団法人への移行について、特例社団法人としての解散登記、一般社団法人としての設立登記の経緯が説明され、それに伴う新定款、組織構成などが議場に諮られ、満場一致をもって議案が可決された。

#### 第6回理事会

- (1)財団法人建設業福祉共済団からの交付金等に係る取扱要領の変更について
- (2)借入金の債務免除について
- (3)平成24年度会費基準(案)について
- (4)平成24年度事業計画並びに収支予算(案)について
- (5)協議員の選出について



臨時総会  
議案第1号

特例社団法人の解散登記並びに一般社団法人への名称変更による移行登記承認の件

議案第2号

関連規程の停止条件付決議に関する件

## 建設共済及び建退共制度説明会

### 県内7地区で開催

秋田県建設業協会は3月に県内7地区の建設業協会との共催により建設共済及び建退共制度説明会を開催し、会員とその関係の建設企業から延べ191名が参加した。

説明会は各地区の建設業会館で開かれ、(財)建設業福祉共済団の町田業務課長、(社)秋田県建設業協会の越後屋業務係長(建退共秋田県支部担当)を講師に建設共済と建退共それぞれの制度について、概要から手続き、注意事項の説明が行われた。

また、説明会終了後、実際の手続き・

処理などについて希望者が講師が個別面談により対応した。

#### 内 容

##### 建設共済(法定外労災補償制度)

- ・新規加入及び自社の掛金区分の見直しについて
- ・更新時の注意確認事項(書類作成等について)

##### 建退共

- ・新様式についてのお知らせと注意事項
- ・加入履行証明書の交付基準等について



## 高校生を対象に特別教育を実施

### 車両系建設機械(締固め用)特別教育

3月6・7日の2日間、(社)秋田県建設業協会は、県内工業系高校で今春卒業の生徒を対象に車両系建設機械(締固め用・ローラー)の特別教育を実施し、全県から高校生15名が参加した。

この度の特別教育は、県内建設業への就職が内定している高校生を対象に、建設雇用改善推進事業の一環とし

て協会が建災防秋田県支部へ委託して実施した。

参加した高校生は、初日の3月6日ルポールみずほ(秋田市山王)を会場に学科講習を受講。翌日、建災防教育講習所(秋田市御所野)に会場を移し、タイヤローラーの実機を用いて操作等の実習を行った。



# 秋田水風景

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター  
取材・執筆歴/旅の手帖、WoodyLife、ペンチャー・リンク、郷、あるる他  
海外取材歴/ドイツ、アメリカ、ブラジル  
写真塾・写楽 主宰/写真教室、撮影ツアー企画等

Vol.32

## 玉川ダム

[たまがわだむ]

仙北市田沢湖玉川



### 建災防秋田支部からのご案内

## 支部Webサイトを開設

### 情報の充実を図る

当支部では従前、安全衛生等教育、また、安全衛生法等に係る情報提供を(社)秋田県建設業協会Webサイトの一部を活用して行ってきましたが、これらについて一層の充実を図り、受益者の便益を向上させる目的から、独立したWebサイトを構築しこの度3月14日に新年度の安全衛生等教育の情報提供に併せ開設いたしました。

今後、コンテンツを充実して参りますのでご活用下さいますようお願い申し上げます。



建設業労働災害防止協会 秋田県支部

<http://www.a-kenkyo.or.jp/jcosha/index.html>

### 建退共

## 事務所移転および閉庁のお知らせ

この度、勤労者退職金共済機構の移転に伴い、建退共事業本部の事務所が移転となります。また、移転作業ため、4月28日から5月6日(閉庁日5月1~2日)までは電話、FAX及び来訪への対応ができませんのでご了承ください。

移転先住所

〒170-8055 東京都豊島区東池袋1丁目24番1号  
ニッセイ池袋ビル

※電話・FAX番号については追ってホームページ等でお知らせ致します。

移転後の業務開始日:平成24年5月7日(月)

(財)建設業福祉共済団から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

雪が解けて里は少しずつ春めいてきて、秋田がくまなく春になるのには少しばかり時間がかかる。  
八幡平アスピーテラインの除雪が済んで岩手県側に抜けられるようになるのはゴールデンウィークの直前だし、森吉山麓の太平洋湖の遊覧船が運航を再開するのは6月に入ってからだ。  
春先の陽気に誘われてドライブに出かけて、通れるとばかり思っていた道がまだ冬の間の通行止めが解除されていなかったということも珍しくないのだ。

言うまでもなく、ダムの上流には玉川温泉があり、そこで湧き出す強酸性の温泉水は、昔から玉川流域の人々を苦しめてきた。田んぼに引く水には適さないし、ひところ田沢湖が魚の棲まない「死の湖」になったのも、玉川の強酸性水のためである。  
こんにち、玉川の酸性水は上流域の大掛かりな施設によって相当程度の中和が図られるようになり、農業用水としても許容範囲になり、あの田沢湖にも魚影が戻るまでになった。玉川ダムのこのコバルトブルーの湖水は、石灰石によって強酸性水を中和させる過程において、結果的に生じた色なのである。さらに言えば、玉川ダムは、中和した酸性水をここでせき止めて攪拌し、さらに中和を進めるとい

一年のうちのわずかな期間しか見られないこの美しい奇観を、貴重な観光資源として秋田県はもともと積極的に売り出していると思うのだが。

## もったいない — アナログ人間の戯言 —

### あゆかわのぼる

3月11日に反射式石油ストーブを2台買った。テレビが地デジ化した時新しいのに買い換え、その時ついたエコポイントで何をかうか判断がつかぬまま期限切れ間近になったので、東日本大震災を、さらに自らの記憶に刻みこもうと、その日を選んで、震災で改めて見直された反射式石油ストーブを買うことにしたのだ。

我が家は居間にファンヒーター、私の仕事部屋にエアコンがついているが、他に3台の反射式石油ストーブがあって、特に私の仕事部屋は、冬はエアコンをほとんど使わず、そのストーブに頼りきっているし、居間もファンヒーターを18度に設定して、続き部屋の食堂に石油ストーブを置いて灯油を節約している。しかし、そのうちの2台は20年選手で、すでにボンコツの域。

テレビは買い換えるつもりではなかった。でも、時々画面が暗くなったりするので電気屋さんに診て貰った。真空管を取り替えるか、どこかの接触が悪くてハンダ付けをしなければいけないのかもしれない、と思ったからである。

電気屋さんが点検して、「修理は無理ですね」と言う。いろいろ説明を受けたが、今の電化製品はほとんどの場合、真空管の交換やハンダ付けなどの部品対応はないらしい。仕方なく買い換える事にした。画面のサイズなどよく分からないが、今までのテレビは旅館やホテルなどの部屋にあるものと同じくらいの大きさだったのが、電気屋さんの奨めるのはその何倍かの大きさだった。私が「それは大きすぎる」と抵抗すると、併せて14畳の居間と食堂を見渡して、「このお部屋ならこれが標準で、他ではもう一回りも二回りも大きい画面のものをつけます」。そう言われて、仕方なく従った。

その、今の電化製品にはほとんど部品対応という事はなくなった、という事について。

私はいまだに原稿は、最初は原稿用紙に4Bの鉛筆で書き、推敲してから求められる字数と行数に合わせてワープロで打ち、さらに推敲を重ねて完成させる。パソコンはあるが私は原稿を書くことは出来ない。所謂“あるだけ人間”。

そのワープロだが、かなり前から画面が赤黒緑の篠つく雨で、その雨を掻き分けるようにして打つ。買った量販店の近くに、その店付属らしい修理専門の店があったので修理に持ってゆくと「買うくらいかかりますよ」という。冗談じゃないので帰ってきて使っているうちにパソコンの普及を促すようにワープロの販売が中止になった。たぶんそれと同時にだったが、ワープロについていたEメール機能もなくなり、私は「詐欺ダッ！」と叫んだ。

ボンコツ寸前のそのワープロにまだ世話になっている。

FAX付の電話は比較的早くつけて今ので3台目である。

最初のものは薄いロール状の紙を使うもので、雑誌社などから送られて来るゲラに赤を入れて送り返す時になにかとやりにくいのでコピー用紙が使えぬ機種に換えた。もったいなかったが仕方がなかった。それがなぜ今3台目なのかというと、昨年だった。依頼を受けた雑誌社に出来上がった原稿をFAXすると、折り返

し電話が来て、送られて来た原稿が灰色の斑で読めない、と言う。原因が分からない。嫁ぎ先の娘に電話してやり取りしてみたら、やっぱり駄目だと言う。買った量販店に確認すると、送る部分の所に埃がたまっている可能性があるから、それを濡れティッシュで拭き取って見てくれ、と言う。やり方を聞くと簡単で、拭き取って娘ともう一度やり取りすると正常になった。

ところが数日後、今度はFAX機能が全く働かなくなった。今度は配線のトラブルだと思ってNTTに電話すると、大きな工事用の車が来て、外の電柱から電話機の所まで念入りに点検してくれたが、そこには異常がなくて、「電話機ですね。電話機に水がかかったことはありませんか」と言う。記憶にない。電話機は窓際のサイドテーブルのような書棚の上に置いてある。窓を開けたままにしている間に雨が降ってくる事もあるが電話機に降り注ぐ事はない。私は恐縮してお礼を述べて帰って貰った。そして、修理して貰おうと買った量販店に持って行くと、「ここには修理部門がないので、メーカーに送ってやる事になる。出来て来るまで速くても1週間はかかる。故障の具合によるが新しいものを買うくらいかかる事もあるので、どれくらいかかるか見積もって貰ったらどうでしょう」と言う。これは果たして親切なのか。あるいは完全な“売りっ放し主義”なのではないか。なぜか腹が立ってきて、そのまま帰り、別の量販店で新しいのを買って来た。

先日、とんでもない失敗に気付いた。例の「電話機に水がかかった事ありませんか」とNTTの人に言われた事を、量販店に電話機を持って行った時は興奮していたし、すっかり忘れていたが、故障の犯人は“埃を拭った時の濡れティッシュ”だったのではないか。今頃抗議に行っても認める事はないだろうし、何よりその電話機はすでに処分してしまった。

これらいずれも明らかに、使い捨てだけでなく、“売りっ放し時代”の証明。たぶん列挙した電気製品だけではないだろう。

こういう何でもかんでも使い捨て、売りっ放しというのを文明の進化だとし、便利で住みよい時代だとすれば、きっとそれほどこまごま間違っている『不幸な時代』で、そんな時代に私たちは生きていて、という事だ。

真空管を取り替えたりハンダ付けをすれば電気器具が蘇る時代を懐古している訳ではないが、一か所が駄目になればすべてが機能しなくなるらしいデジタル、コンピュータ化の時代に生きている事が本当にいいのか、考えてみる時かもしれない。

新しい反射式石油ストーブを2台買って、たぶん今度来る冬は、2台のボンコツの寿命寸前のストーブのうち1台、あるいは2台を処分する事になるだろう。20年前後付き合ってきた、気持ちは単なる「もったいない」だけではなく、何となく別れるのが寂しい。切ない。つらい。

せめて、残り少ない春寒、私たちを暖めて貰おう。

蛇足だが、我が家の電子レンジは回らない。故障ではなく、かなり昔、まだ電子レンジが回らない時代に買ったものだ。愚妻の知り合いたちはからかって笑うようだが、これは我が家の自慢で、日常生活に充分活用していて、何の不便もない。